

別記
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

| | |
|--|---|
| (宛 先) 京 都 府 知 事 | 令和5年 7月31日 |
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 東京都港区海岸一丁目7番1号 | 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO 宮川 潤一 |
| 環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称 | ISO14001:2004 |
| 適 用 範 囲 | 京阪奈センター |
| 導 入 年 月 日 | 2007 年 8月 20日 |
| 認 証 番 号 | EMS81966 |
| 基 本 方 針 | 私たちは、地球環境の保全が世界共通の重要課題であると同時に、企業市民としてのソフトバンクと、それを構成する私たち社員一人ひとりの責務でもありと考えています。こうした認識のもと、2007年8月に「環境行動指針」を定め、環境保全への体系的な取り組みを推進しています。ソフトバンク株式会社（以下「弊社」という）は、電気通信事業を通して地球環境の維持・保全に積極的に取り組み、持続可能な社会の継続的発展に貢献します。弊社は、事業活動の推進において、環境保全に関する諸法規およびその他の要求事項を遵守します。弊社は、環境マネジメントシステムにより、事業活動における環境負荷を低減して行くため、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等について環境目標を設定し、継続的な改善に努めます。弊社は、事業用機器や物品の調達に当たり、環境にやさしいグリーン調達を推進します。弊社は、環境負荷低減に資するネットワーキング技術の開発やネットワーキングサービスの提供に努め、社会全体の省エネルギー化に貢献します。弊社は、社員への環境教育に努めるとともに、弊社の環境に関する情報を社内外へ公表し、コミュニケーションを図ります。 |
| 環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。） | <ul style="list-style-type: none">電力の省エネルギー原単位： 前年比1%削減ガソリン使用量： 監視産業廃棄物の処理方法： 遵守廃フロン類の処理方法： 遵守 |
| 目標を達成するための取組の内容 | <ul style="list-style-type: none">省エネルギー（CO2） 室内温度の適正化、空調室外機の日除、室内照明の間引き、未使用設備の電源OFF等省資源（紙） 会議配布資料の削減、プロジェクタの利用促進、リサイクル処理省資源（ガソリン） 社用車の利用削減、エコドライブ、アイドリングストップ励行廃棄物排出量の削減 保守材料のリユース促進空調器室外機の洗浄（毎年6月前後に実施）テレワーク（在宅勤務）の推奨 |
| 目標を達成するための取組の進捗状況 | <ul style="list-style-type: none">省エネルギー（CO2） 室内温度の適正化継続実施中、空調室外機の日除、室内照明の間引き、未使用設備の電源OFF実施済み省資源（紙） 会議配布資料の削減、プロジェクタの利用促進、リサイクル処理継続実施中省資源（ガソリン） 社用車の利用削減、エコドライブ、アイドリングストップ励行継続実施中廃棄物排出量の削減 保守材料のリユース促進継続実施中フロン 排出漏洩量管理空調器室外機の洗浄（毎年6月前後に実施） |
| 目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価 | <ul style="list-style-type: none">エネルギー効率のより良い携帯電話サービス用設備への切替・更新が進み基地局設備の増設が進むため、エネルギー使用量とCO2排出量は増加傾向となったが、原単位当たり排出量を減らせるよう、目標達成に向けて活動を進める。各種取り組みにより、従業員に省エネ意識が浸透している。 |
| 事業活動に係る法令の遵守の状況 | 法令で定められた測定や報告については年間計画として漏れなく実施している。 これまでに違反や行政当局からの指摘はなかった。 |
| 環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容 | 現行の取り組みにより一定の成果が見られていることから、同一のシステムにより運用している。 |

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。